

テララーメード防除提案

クレンジット創出まで

水稲中干し延長 一気通貫で普及

バイエル クロップ

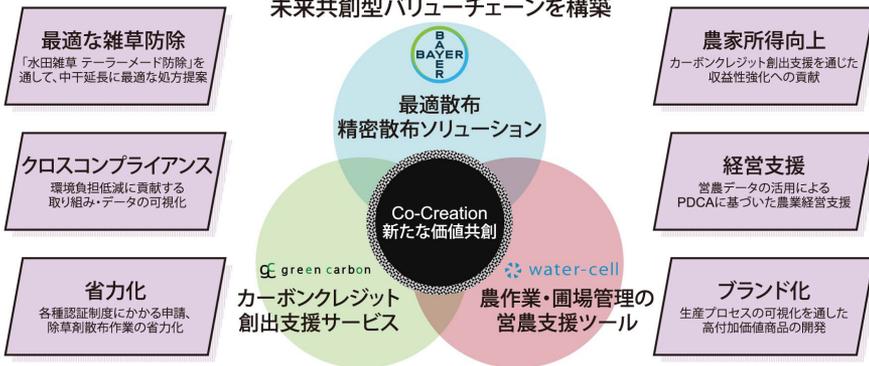
バイエルクロップサイエンス（東京都千代田区）が日本の持続可能な農業の普及に向け「デジタル＋環境負荷低減」をキーワードとする新たなソリューションを展開する。稲の今作付けシーズンに三菱商事系のウォーターセル（新潟市中央区、環境スタートアップのGreen Carbon（グリーンカーボン、東京都港区）と連携し、温室効果ガス（GHG）排出に抑制効果のある水稲栽培の中干し延長を促進。この際課題となる雑草発生を農業のテララーメード処方による防除の最適化から水田をテラタ化する高度管理、カーボンクレジット創出までの一気通貫サービスを提供していく。

同社は昨年、営業支援サービスを手がけるウォーターセル、今年に入りカーボンクレジットの創出・申請、販売支援を行うグリーンカーボンと相次ぎパートナーシップを締結。3社連携でシナジーを生み出し持続可能な農業の普及を図る狙いだ。

グリーンカーボンが参加者を募り、まとめて申請・登録する「稲作コンソーシアム」には、ウォーターセルやNTTコムユニケーションズなどが参画。3社連携モデルでは、各社が本業分野で取引のある稲作農家にそれぞれの立場から中干し延長の利点を紹介し、稲作

コンソーシアムを含め、カーボンクレジット化による新たな収益源に対する潜在ニーズを掘り起こすところが、パーストリ

未来共創型バリューチェーンを構築



が今年に入り国内で初めて認証された。一方、中干し延長は環境保全対策だが、雑草の発生が問題で慣行よりも農薬の使用量が減ってしまうことも

あり得る。そこで、バイエルクロップでは、本格展開に向け進めてきた除草剤をほ場ごとに処方して効果を減らしながら除草効果を上げる新サービスであるテララーメード防除を中干し延長の栽培に組み込む提案を行い、水田の環境保全に貢献していく。

「今国会で審議中の新しい基本法の方針とも一致しており、水稲栽培の中干し延長ならば確実に3社で価値が提供できる」と連携の意義を強調する

現在、2万3000以上の組織で活用され、いわば国内農業の有力デジタル基盤となっている。同システムツールからバイエルクロップが今春から一般の農業生産者に提供を開始した農業テララーメード処方・最適散布をサポートするシステム「My防除」に簡単にアクセスできる仕組みにするとともに、連携によってツール導入に際する新規顧客への水田状況や作業効率向上のためのデータ化の推進などを検討している。まず大規模コメ生産者に呼びかけ、共創型バリューチェーンづくりを後押しし、将来のリジェネティブ農業の実現に道筋をつくる考え

水稲栽培の中干し延長は、日本で古くから行われてきた栽培方法で、慣行の中干し（水田を乾かす期間を1週間ほど延ばすことで農業セクターからの排出割合の高いGHGであるメタン抑制につながる）が明らかに

ある。2万3000以上の組織で活用され、いわば国内農業の有力デジタル基盤となっている。同システムツールからバイエルクロップが今春から一般の農業生産者に提供を開始した農業テララーメード処方・最適散布をサポートするシステム「My防除」に簡単にアクセスできる仕組みにする